

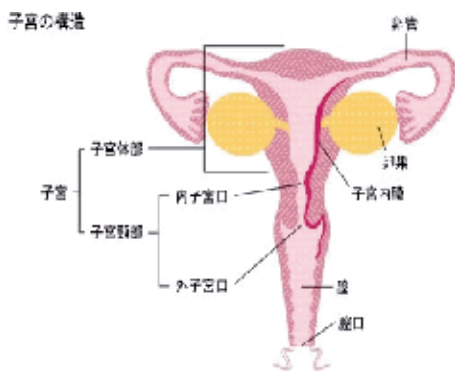
山本組合総合病院  
産婦人科

## 松井 俊彦

### 子宮頸がんとその予防ワクチンについて（その1）

子宮頸がんとその予防ワクチンについて2回に分けてお話をさせていただきます。

子宮頸がんは子宮頸部（子宮の入口の部分）に発生するがんです。



子宮がんという言葉が使われていますが、厳密には子宮がんには子宮頸がんと子宮体がんがあり、この二つは全く種類の異なるものです。

子宮頸がんは日本において年間約15,000人が罹患し、約3,500人が死亡しています。子宮がん検診の普及により死亡率は減少しましたが、25〜40歳の若年層の患者が増加しており、いまだに恐ろしい病気であることははいりません。



子宮頸がんの原因はヒト・パピローマウイルス（HPV）というイボを作るウイルスであることが明らかになりました。この感染経路は性交渉であることもわかってはいるのですが、いわゆる性病ではありません。非常にありふれたウイルスで、一般

的に女性であれば生涯のうち80%の人が感染するといわれています。HPVにはたくさん種類があり、その中でもハイリスク型と呼ばれる発ガン性の高いウイルスがあります。

このウイルスは一度感染しても90%が免疫の力で自然に消滅してしまい、残り10%位が少し細胞に変化がおきる異形成という前がん状態となります。その内10%が持続感染を起こして、さらにその10%位がガン化します。つまりウイルスに感染した方の約1,000分の1が子宮頸がんになるわけです。この期



間は非常に長く、5年から10年以上、あるいは20年、30年ということもあります。

子宮頸がんに対する対策には2本の大きな柱があります。一つは子宮がん検診を受け、早期発見をすること。もう一つは予防ワクチンを受けることです。話をします。

子宮がん検診は、子宮頸がんの発生しやすい子宮頸部の細胞をブラシやへらでこすり取り、顕微鏡で細胞の異常がないかどうかを見ること（細胞診）です。この検査により前がん状態で発見することが可能であり、これは他のがんにはないすばらしい検査方法であります。最近ではHPVの検査が保険で認められ、細胞診とHPV検査との併用も行われてきています。これらの検査で異常を認めた場合、次に行うのが、子宮頸部を拡大鏡（陰拡大鏡診）で確認し、生検（狙